

学会録事

国際海洋学会議 (International Oceanographic Congress) の開催について

今回、会員新崎盛敏氏から表題の会議について下記の様な通知がありました。本会々員中で議題にあてはまりそうな論文をお持ちの方は米国の方に連絡をとり論文を提出して下さい。尚又同時に学術会議内の海洋学研究連絡委員会か、新崎盛敏氏に連絡して下さい。

x x x x x

アメリカ科学振興会は UNESCO 及び ICSU の SCOR との共催で 1959 年 8 月 31 日より 9 月 12 日まで、New York の国連ビルにおいて国際海洋学会議を開催する。

海洋学、海洋生物学に関する基礎科学全分野に亘り、次の 5 部門に分れる symposium が持たれて講演、研究発表、討論が行われる。

1. History of the ocean (8 月 31 日, 9 月 1 日)
2. The boundaries of the sea (9 月 8, 9 日)
3. The deep sea (9 月 4, 7 日)
4. Cycles of organic and inorganic substances in the sea (9 月 10, 11 日)
5. The marine life regime, the population of the sea (9 月 2, 3 日)

5 の生物部門では Differentiation and dispersal of marine populations の sect. で、① Paleogeography of marine floras and faunas, ② Biogeographical regions in the sea, ③ Evolution and adaptation in the sea, また The physiology and behavior of marine organisms の sect. で、④ Behavior of marine organisms as influenced by environmental factors, ⑤ Physiology of marine organisms 及び ⑥ The culture of marine organisms as means of understanding environmental influence on populations 等の諸問題に関する発表、討論が行われる。

研究論文を提出されたい人は下記の規定で原稿を作り提出する事が出来る。但し受理の選定は convener が行い、受理された物でもすべてが会場で発表される訳ではない。論文は古い仕事の綜述よりも現状をより推進せしめる様な物が望ましい。

① 送り先: Dr. Mary Sears, Woods Hole Oceanographic Institution, Woods Hole, Massachusetts U.S.A.

② 締切り期日 (必着日): 1959 年 1 月 31 日 abstract; 4 月 30 日, complete 論文.

③ 用語及び長さ: 英・仏・独・露またはスペイン語, abstract, 200 語以内.

用紙は 9 吋×12 吋の type 用紙, 上下に 1 吋づつ, 左 1.5 吋, 右 0.5 吋あけた space の片頁だけ使う。type-writer で double space あける。

会 員 移 動

(昭和 33 年 4 月 1 日より 11 月 15 日まで)

(昭和33年11月15日現在 会員数 314名)

本学会第6回総会記事

本学会第6回総会は日本植物学会第23回大会第2日、昭和33年10月26日、午後6時から9時すぎまで九州大学農学部に於いて行はれ、44名が之に参加し盛会であつた。次に会の順序に従つて之を報告する。

1. 開会の辞： 瀬川 宗吉氏

2. 議長選出： 慣例により地元会員中から岡田喜一氏が選出された。

3. 庶務、会計報告： 先に本誌第6巻第1号に同封した32年度報告に基づき、阪井幹事が報告、承認を得た。

4. 議事

A. 評議員制を設ける為の会則変更の件 本年4月4日東京に於ける本会懇談会以来、本会役員会では本誌6巻1号に於いて全会員にアンケートを発送し、それをもとにして原案を作製、之を6巻2号に於いて全会員に配布して来た。川嶋前幹事の経過報告の後、この原案に基づき逐条審議の形で検討、多少の字句の改訂はあつたが原案に近い形で承認された。

B. 幹事手当の件 山田会長から、今日まで幹事の手当は全く無かつたが、会の基礎も出来たので幹事には勤務1ヶ年につき2ヶ年分の会費を免除したい、との申出があり、之に対し諸会員より種々好意的意見があり、結局1年間の勤務につき3年分の会費を免除することに決した(尙之は過去に溯ることとする)。又会長の意志により適当に運営されたいと云ふ事になつた。

5. 会食及懇談： 瀬川氏から九州地方に於ける海苔養殖、藻類の天然記念物等が各会員に配布された地図によつて話され、名物のオキウドや水前寺苔の砂糖漬等を賞味しながら楽しい時を過した。

6. 講演： 山田幸男氏「フランス国立自然科学博物館主催の会議に出席して」と題し、カラー・スライドにより講演が行われた。

終了は9時20分頃であつたが、後用意のバスに乗り各自の宿舎附近で下車し散会した。尙本総会開催について地元の瀬川宗吉氏及びその教室員の非常な御厚意を頂いた事を感謝する。

(阪井記)

本会所蔵の雑誌及び論文別刷目録

雑 誌

Acta Biologica Venezuelica Vol. 1, Art. 1-17.

Vol. 2, Art. 1-17.

日本菌学会々報 No. 1, 2, 4-9.

水産庁内海区水産研究所研究報告 No. 4-10.

横浜市立大学紀要 Ser. C-7, No. 28., Ser. C-11, No. 42., Ser. C-12, No. 43.,
Ser. C-13, No. 46., Ser. C-14, No. 47., Ser. C-15, No. 51.,
Ser. C-18, No. 71., Ser. C-20, No. 82.

論 文 別 刷

深瀬嶽・末松四郎：緑藻 *Pithophora* に於ける *Akinete* 発芽に関する研究；和歌山大学
学芸学部紀要 (自然科学) 第 8 号 (1958).

van den HOEK, C.: Observations on the algal vegetation of the northern pier
at HOEK van Holland, made from October 1953 till August 1954; *Blumea*,
Vol. IX, No. 1 (1958).

—————: The algal microvegetation in and on barnacle-shells, collected
along the Dutch and French coasts; *Ibid.*

川名 武：近年に於ける天草の磯焼について；水産増殖, Vol. 3, No. 3.

小林義雄：菌学五拾年；自然科学と博物館, 第 24 巻第 3-4 号 (1957).

KOSTER, J. TH.: Cyanophyceae aus der Umgebung von Zürich; *Vierteljahrssch-
rift der Naturforschenden Gesellschaft in Zürich* XCVIII (1953).

—————: The genus *Rhizoclonium* Kütz. in the Netherlands; *Publ. Staz.
Zool. Napoli*, Vol. XXVII (1955).

国立国会図書館：逐次刊行物目録；納本週報 (1955, 1956).

NAKAZAWA, S.: Sensibilidad diferencial de los ovulos de *Coccophora langsdorffii*;
Anales del Instituto de Biologia, Tomo XXVI, No. 1 (1955).

—————: Developmental mechanics of Fucaceous algae I. the preexistent
polarity in *Coccophora* eggs; *The Science Reports of the Tohoku University*,
Fourth Ser., Biology, Vol. XXII, No. 3 (1956).

—————: Developmental mechanics of Fucaceous algae II. Vital staining
of centrifuged *Coccophora* eggs; *Bot. Mag., Tokyo*, Vol. 70, No. 823 (1957).

—————: Developmental mechanics of Fucaceous algae III. Differential
permeability in *Fucus* eggs; *Ibid.* Vol. 70, No. 825 (1957).

—————: Developmental mechanics of Fucaceous algae IV. Morphogenetic
movement of *Coccophora* eggs; *Ibid.* Vol. 70, No. 826 (1957).

—————: Developmental mechanics of Fucaceous algae V. Differential
distribution of leithine on the surface of the egg protoplasm in *Cocco-
phora* and *Sargassum*; *The Science Reports of the Tohoku University*, Fourth
Ser., Biology, Vol. XXIII, No. 1 (1957).

—————: Developmental mechanics of Fucaceous algae VII. Apicobasal
gradient in a later stage of *Coccophora* embryo; *ORTON*, 8(1): V-1957.

才田利彦：愛媛県松山港近海の潮間帯に於ける海藻群落の季節的消長；私の生物研究。
第 3 輯 (1953).

- 末松四郎：寄生性緑藻 *Cephaleuros virescens* の培養型について；藻類，第5巻，第2号（1957）。
- SUEMATU, S.: Notes on *Cephaleuros* and *Phycopeltis*, parasitic and epiphytic aerial-algae III. Lists of infected plants; Bot. Mag., Tokyo, Vol. 70, No. 831 (1957).
- 末松四郎：スミレモ科植物の胞子囊について；和歌山大学学芸学部紀要（自然科学）第7集（1957）。
- ：地上藻類 *Cephaleuros*, *Phycopeltis* について IV. 寄生植物の葉組織の変化；和歌山大学学芸学部紀要（自然科学）第8号（1958）。
- TSUBO, Y.: On the mating reaction of a *Chlamydomonas*, with special references to clumping and chemotaxis; Bot. Mag., Tokyo, Vol. 70, No. 832 (1957). (1958. 10. 31 現在)

スケジュール博士及びドッチイ博士の北海道訪問



忍路海岸に於ける
スケジュール博士

海実験所を訪れ、磯採集を行い、翌3日は室蘭の海藻研究所を訪れ、再度来日の希望を述べ11月4日千歳空港より離道した。

米国のハワイ大学のドッチイ博士 (Maxwell S. DOTY, University of Hawaii, Honolulu 14, U. S. A.) は今夏7月28日札幌着、本学を訪問、山田・時田教授と交歓、翌29日室蘭海藻研究所を訪問、30日千歳発離道した。

カナダ国のブリティッシュコロンビア大学のスケジュール博士 (Robert F. SCAGEL, Department of Biology and Botany, University of British Columbia, Vancouver, B. C.) はバンコックへの旅行の帰途、昨年11月1日札幌着、翌2日北海道大学理学部に来訪、山田・時田教授と歓談後、快晴を利用して、忍路臨



海藻研究所に於ける
ドッチイ博士